

# 科目区分：人文・社会科学科目

授業科目名	言語と芸術（文学における生と死）					学期	曜日	校時
英語名	Language and Art (Life and Death in Literature)							
担当教員名	山本 建雄	単位数	2単位	必修選択	選択	後期	火曜日	3校時
授業のねらい・内容・方法								
<p>生命の尊厳が叫ばれる中、残虐かつ理解しがたい犯罪が続発している。これらの事件は、私たち一人一人に人間の生と死への再考を促している。本授業では、近現代の文学者たちが、自らの生と死についてどのように考え、どのように生きたか、他者の生と死に対してはどうであったか、また、これらのことをどう作品化したか、などと言ったことについて、残された資料をもとに明かにする。こうした結果を受け、受講者各自でその受け止め方、生かし方について考え、自らの生と死についての認識をより深く確かなものとする。</p>								
テキスト、教材等								
授業計画に従い、毎回プリント資料を用意する。合わせ参考文献等も紹介する。								
対象学生	成績評価の方法					教員研究室		
全学部	定期試験と小テストの成績、出席の状況等を統合し、評価とする。							
授業計画								
<p>第1回 授業の目的、内容、方法          第2回 生と死を巡る今日の状況          第3回 受講者は生と死についてどう考えるか          第4回 正岡子規における生と死          第5回 夏目漱石における生と死          第6回 森鷗外における生と死          第7回 芥川龍之介における生と死          第8回 志賀直哉における生と死          第9回 齊藤茂吉における生と死          第10回 宮沢賢治における生と死          第11回 高村光太郎における生と死          第12回 梶井基次郎における生と死          第13回 太宰治における生と死          第14回 遠藤周作における生と死          第15回 文学者達の生と死から学んだもの</p>								
<p>オフィスアワー（質問受付時間）</p> <p>木曜日 2校時。</p>								